



清瀬の杜

令和6年3月号
令和6年3月21日
校長 佐藤 明子

<http://www.kiyose.ed.jp/kiyosetyuugakkou/index.html>



修了式を迎えて

校長 佐藤 明子

令和5年度の教育活動も明日のみとなりました。19日(火)に挙行了した第77回卒業式は、清瀬中学校生徒たち全員で創る今年度最後の学校行事でした。卒業式は儀式的行事ですから、運動会や音楽祭、作品展と違い、礼法が優先されますが、参加者の気持ちが一つでなければ、あの厳かな空気を創り出すことはできません。3年生に有終の美を飾ってもらえるよう、式を支えてくれた1・2年生に感謝します。卒業生からもらった「仲間を大切に、全員で目標に向かって努力する姿勢」は、最後の素敵な宝物となりました。清瀬中学校の良き伝統として、残された私たちは引き継いでいきましょう。

「卒」には「終える」という意味、「業」には「なすべきこと」という意味があります。つまり、「卒業—なすべきことを成し遂げた」という意味が込められています。私から卒業生に手渡した卒業証書には、「中学校の全課程を修了したことを証する」と記されていました。「社会に出ても、自分の力でたくましく生きていくことができる」という証明書であり、卒業証書を授与されるということは、証明書としての重みをよく理解したうえで、責任ある行動を、自らの考えて判断し実行しなくてはならないことであるといえます。

1・2年生は、明日、修了式を迎えます。今年度は活動制限もなくなり、昨年度以上に新しいことに挑戦し多くのことを学びました。「定期テスト前だけでなく、日常から学習する習慣を身に付けることができたか」「部活動と学習・生徒会活動をバランスよく実践できたか」「学校行事は、仲間と協力し、互いの良いところを認め合いながら全力で臨むことができたか」等、修了を機に、学びの一つひとつを振り返り、自己の成長を確かめましょう。また4月からの新生活に向けて、学習、生活、諸活動、心の在り様など、いろいろな角度から準備していくことが大切です。

2週間の春季休業で急に体が大きくなるわけでも、学力が伸びるわけでもありませんが、心構えや気持ちの変化がなくては、成長のきっかけをつかむこともできません。意識の持ち方ひとつで、行動は大きく変わります。修了式、学年末という節目は、進級に対する心構えをつくる大切な機会であり、成長のスタート地点です。今日まで自分が積み重ねてきた学び、仲間と築き上げた絆など、かけがえのない経験に自信と誇りをもち、4月から始まる新しい生活に向けた準備を確実にしていってほしいと願っています。

結びに、保護者や地域の皆様方におかれましては、令和5年度も、子供たちが安心して、将来に向かって大きな夢を掲げ、実現しようとする本校の教育活動に、あらゆる角度から温かいご支援とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

🌸 大変お世話になりました 🌸

●19日(火)に報道されたように昨年度より、3月下旬に教員異動が発表されることになりました。

●離任式は、22日(金)修了式後に、本校体育館にて行います。



🏠 ∞学校評価を本校ホームページに掲載しました∞ 🏠

3月1日(金)に実施した学校運営連絡協議会と年度末の教職員の会議を経た今年度の学校評価をホームページに掲載しましたので報告いたします。来年度も本校の教育活動に、変わらぬご支援をお願いいたします。